



三極委員会東京総会における共同議長声明

2026年5月16日

トライラテラル・コミッション（三極委員会）は、世界が大きな変革を遂げつつあるときに、東京で一堂に会した。国際システムは、戦争、戦略的対立、経済の分断、技術革新による混乱、そして制度への信頼低下によって試練に直面している。しかし同時に、これは大きな可能性に満ちた時代でもある。人工知能、科学的発見、新たな金融の形態、エネルギー・システムの変革は、かつて想像もできなかった規模で人類の福祉を向上させる可能性を持つ。この時代が、より大きな繁栄の時代となるのか、それともさらなる混乱の時代となるのかは、まさに今、私たちが下す選択にかかっている。

半世紀以上にわたり、トライラテラル・コミッションは、アジア太平洋、北米、欧州の指導者たちの結集のもと、地域、分野、立場を超えた協力の強化に努めてきた。1973年の設立以来、コミッションは一つの確信に導かれてきた。すなわち、相互依存は対立ではなく協力の源でなければならない、ということである。コミッション誕生の背景となった世界は大きく変化した。しかし、その創設を支えた責務は変わっていない。

私たちは、「グローバル・スチュワードシップ（地球規模の責任ある統治）」をテーマに今会合を開催した。これは法の支配を守り、技術の開発と利用において人間の判断を維持し、市場が幅広い繁栄を生み出せるようにし、制度への国民の信頼を確保するという、共通の責任を意味する。

世界が直面する今日の課題は、ますます相互関連性を深めている。ロシアによるウクライナ侵略は、主権と領土的一体性の原則を引き続き揺さぶっている。中東は依然として、人道、地政学、エネルギー安全保障の面で深刻な懸念を生み出している。アジアにおける安定は、信頼できる抑止力、効果的な危機管理、継続的な対話、そして強靱な社会に依存している。さらに、私たちすべての地域において、偽情報、分断、不信が社会的結束と民主的統治を脅かしている。

アジア太平洋、北米、欧州の協力は不可欠である。そしてその協力は、開かれ、外向きであり、より広い世界と結びついていなければならない。トライラテラルの各地域は、その経済的規模、技術力、政治的経験、そして国際的影響力ゆえに、特別な責任を負っている。その責任は、主要国、新興国、そしてグローバル・サウスの声を含む、三地域を超えたパートナーとの対話と協力を通じてのみ果たすことができる。

今回の東京総会における中心的課題は、技術変化が加速する時代に、人類はいかにして力を制御し、責任ある形で用いていくのか、という点にある。人工知能（AI）は、その核心に位置している。AIは、科学的発見、生産性、教育、経済変革を加速させる可能性を持つ。一方で、情報の健



全性を損ない、権力集中を招き、不平等を拡大させ、紛争を激化させ、説明責任を弱める危険性も持つ。AI は、人間の意志、判断、そして人間の責任による統制の下に置かれなければならない。

この原則は、軍事・安全保障の領域において、とりわけ重要である。AI はすでに、情報活動、サイバー防衛、自律型システム、重要インフラ、標的支援、意思決定支援、指揮統制システムを大きく変えつつある。その速度と規模は、意思決定時間を極端に短縮し、責任の所在を曖昧にし、不測のエスカレーションの危険を高める可能性がある。武力行使、エスカレーション、あるいは核指揮統制に関わる決定は、有意義な人間による制御と、説明責任を伴う政治・軍事指導の下に置かれ続けなければならない。

東京会合は、この議論に特別な道義的重みを与えている。広島・長崎への原爆投下から 80 年を経て、トライラテラル・コミッションのメンバーは、2024 年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の証言を聞く機会を得た。被爆者の証言は、ひとたび制約なく解き放たれた力が、いかなる理論や想定をも超える結果をもたらすことを、世界に思い起こさせる。国際社会は原子爆弾による破滅的被害を経験した後、その抑制のための規範と仕組みを築いた。AI については、破局が起きる前にその仕組みを築かなければならない。核のリスクが再び高まりつつある今、私たちは、核兵器が二度と使用されてはならないことを改めて確認する。

この精神の下、トライラテラル・コミッションは、AI、人間による統制、そして戦略的安定性に関する研究を立ち上げる。本イニシアティブでは、安全保障および防衛分野における AI の責任ある利用について、特に核指揮統制、自律型システム、人間の説明責任、不測のエスカレーションの危険に焦点を当て、実践的なアプローチを検討する。中間的な成果は、2026 年の各地域会合において共有・議論される予定である。

私たちは東京総会の締めくくりにあたり、国際法、人間の尊厳、責任ある統治、開かれた交流、共有された繁栄、そして平和的協力へのコミットメントを新たにする。アジア太平洋、北米、欧州の三委員会、世界各地のパートナーと共に、力に説明責任が伴い、技術が人類に奉仕し、繁栄が広く共有され、平和が維持される未来を築くために協力していかなければならない。

アジア太平洋委員長

新浪剛史

北米委員長

メーガン・オサリバン

欧州委員長

アクセル・アルフレッド・ウェーバー

*本文書は、2026 年東京総会の開催を踏まえ、三極委員会アジア太平洋委員会が作成した公式日本語訳である。